

1986年度
キネマ旬報ベスト・テン
文化映画部門 第2位

ユートピアと悪夢、
パラダイスと死線
記憶の輪郭をたどる、
それぞれの言葉

大日向村の46年
満州移民・その後の人々

この映画は、昭和59年夏、
“幻の映画”と呼ばれていた劇映画
『大日向村』(1940年)が発見されたことをきっかけに
長野県にある二つの大日向で満州へ移民した人々を訪ね、
戦争で国の政策に翻弄された
彼らの満州での経験とその後を記録したものである。

国家とは、人間とは何か

昭和13年、全国で初めて、村の半分という大規模な開拓団
を旧満州へと送り出した大日向村(現・南佐久郡佐久穂町)。
その出来事は模範的な農村の姿として賞賛され、小説や劇、
映画まで製作された。それまでは名もない山村であった
「大日向村」の名は一躍日本国中に宣伝され、以後政府は、
全国から多くの開拓団を旧満州へ送り出していった。満州
大日向村は開拓のモデルケースとされたために旧満州でも
格好の土地を与えられたといわれる。しかし、敗戦によって、
わずか8年足らずで大日向村の「王道楽土」の夢は崩れ去った。
敗戦により満州大日向村を脱出した人々は、長春(旧新京)
での一年近い難民生活の間に団員(674名)の半数以上を
亡くし、昭和21年9月、やっとの思いで母村大日向村に引き
揚げてきたが、移民した際に財産は一切処分していたために、
母村に長く留まることが出来ず、昭和22年2月、65戸165名の
人々は再び故郷を離れ、もう一つの大日向——軽井沢町大
日向をつくった。こうして現在、長野県に二つの大日向がある。

戦争を経験した世代にとって、大日向村は記憶に生々しい地名である。(中略)
われわれがあいまいなままに記憶の片隅に追いやっていたこの過去に、
あらためてじつに鮮烈な光を当て、
その無残な細部をまざまざと蘇らせてくれる映画である。

佐藤忠男 (映画評論家)



2025.7.12(土) 12:30開演
Peatixにてチケット販売中(1000円)
目比谷図書文化館
目比谷コンベンションホール

主催 戦場体験放映保存の会
senjyou@notnet.jp
https://jvwap.jp
TEL: 03-3916-2664

大日向村の46年

出発から46年を経て、語り始めてくれた人々の記録
(1985年制作)

2025.7.12(土)
12:30開演



Peatixにて
チケット販売中

山本常夫 監督

構成: 若月健一・小泉修吉・山本常夫 | 演出: 山本常夫 | 撮影: 山口誠・沢幡正範
撮影助手: 田村圭三 | VE: 隅田一明 | ナレーション: 村松康雄 | タイトル: 河原動画制作室
プロデューサー: 小泉修吉 | 製作: グループ現代 | 1985年 | 155分 | カラー
協力: 佐久町大日向のみなさん | 軽井沢町大日向のみなさん | 佐久町教育委員会 | 東宝株式会社
制作協力: 映画「大日向村」を観る会 | 佐久総合病院 | 朝日放送株式会社
配給: グループ現代 | 配給協力: 長野映研

満州移民・その後の人々
第一部 分村移民の軌跡
第二部 語る——過去と現在をつなぐもの

映画制作から40年目の今年、残された記録に出会う

2025.7.12(土) - 13(日)

戦後80年目の戦場体験上映会

体験者だけが知るあの戦争の実相を語り継ぐ

日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール(大ホール)

東京都千代田区日比谷公園1-4

東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」 B2出口より徒歩約3分

東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」 C4出口より徒歩約3分

都営地下鉄 三田線「内幸町駅」 A7出口より徒歩約3分

JR 新橋駅 日比谷口より徒歩約10分

2日目のイベント
(無料)もお見逃しなく!



7/12 Sat 【前売・当日 1000円】

映画 **大日向村の46年**

山本常夫監督
1985年製作/155分

開場 11:30

開演 **12:30 - 15:15**
途中休憩あり

山本常夫監督トークイベント ※交渉中 **15:30 - 16:30**



7/13 Sun 【無料】 ※チケット制ですのでご予約下さい

映画 **語らずに死ねるか
無名の元兵士たちの声**

長尾栄治監督
2009年製作/45分

開場 12:00

開演 **13:00 - 13:45**



証言動画を見る会「特攻」 **14:00 - 16:00**

保存の会が記録したインタビュー動画を解説とともにお見せします。

解説: 栗原俊雄氏(毎日新聞学芸部専門記者)

著書「特攻一戦争と日本人」(中公新書、2015年) 他多数



どうせ人間いつかは死ぬんだよ、遅かれ早かれ死ぬんだよ、だから俺が死ぬ時にはアメ公の何百何千人をお供に連れて行って死ぬんだというような、そういう考えでいたから。うん、死ぬっていう恐ろしさっていうのはなかったよね。

水野章さん
(回天、第2特攻戦隊大神突撃隊)

「決まったらしゃあないね」「同じ死ぬんなら外すなよ」と言って、「我慢せんでいいから俺が抱いておくから泣け」と言ったら、兄貴のようだったんだろう、胸に抱かれてわんわん泣いて、何時まで経っても忘れられん。

平嶋福美さん
(201海軍航空隊)

特攻隊で生き残った人が、どんなふうに特攻隊で死んだ人のことを考えてもね、絶対に特攻隊で死んだ人の気持ちを理解することは出来ないわけですよ。

松浦喜一さん(陸軍特別操縦見習士官、第144振武隊)

チケットはPeatixで購入(QRコードリンク先)
またはフォームにてお申込み下さい。



ファックス・郵送・メールでもお申込みいただけます。
禅譲体験放映保存の会宛てに、お名前、ご連絡先、参加日程をお知らせください。(下記フォームをご参照ください)

主催

公益社団法人マスコミ世論研究所内

戦場体験放映保存の会

〒114-0023 東京都北区滝野川6-82-2

TEL 03-3916-2664 (火木土日祝 10時~17時)

FAX 03-3916-2676

e-mail senjyou@notnet.jp

戦場体験史料館HP <http://www.jvvap.jp>

私たちは「無色、無償、無名」を固い原則にしています。どんな立場の方も、どんなご意見の方も、ただ戦場体験を語り継ぐ一点だけで手を繋ぎあいます。戦争の極地であった戦場がドラマや将軍の戦記物のみで伝わることを避け、名もなき我々の声を残しておきたいのです。

自らの体験を記録する最後の機会にかけて、懸命に語り残したひとりひとりの体験は、戦争体験を過去の遠い悲劇として捨て去るのでなく、名も無き人々が名も無く殺しあう時代を終らせるために広く活用頂きたいと願っています。

戦後80年目の戦場体験上映会 参加申込フォーム(FAX用)

お名前・ご住所またはメールアドレス・お電話番号(メールアドレスの方はなるべくご記入願います)と参加希望日を、戦場体験放映保存の会宛てに**FAX・郵送・メールのいずれか**でご連絡ください。

お名前		参加日	☐ 7/12(土) ☐ 7/13(日)
ご住所 又はemail		お電話	

- ・チケットを送付いたします。費用は当日会場受付にてお支払い下さい。(7/13は無料です)
- ・チケットをお持ちの方優先でご入場いただけますので、なるべく事前にお申込み下さい。

【戦場体験放映保存の会】2025年の主なイベント予定

6/13金
-6/15日

沖縄の戦争展
(浅草公会堂展示ホール)

- ・体験談展示
- ・写真展
- ・証言動画を見る会

9/27土

第6回
あの戦場体験を語り継ぐ集い
(東京神保町・一ツ橋ホール)

- ・体験者15名程によるトークリレー
- ・シンポジウム(予定)

11月下旬~
12月上旬頃

戦場体験談等の展示イベント
(未定・東京都内)

- ・体験談展示
- ・戦場体験者の講演会
- ・証言動画を見る会 等